


(シラバス No.14) (専門科目 特別講究 I)

科目名	特別講究 I (看護教育学) 英語名: Special Seminar on Nursing Education	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	児玉 ゆう子	

【授業概要】

本科目では、看護医療での自身の実践をさらに深めるために、看護職を中心とした教育に関する理論と知識を理解し、さらに、その研究を遂行する際に必要なアプローチについて理解する。これらと同時に、看護職等での基礎教育、卒後の現任教育、継続教育の現場での実践を踏まえた参与観察、当事者へのヒアリング調査および先行研究のレビューを通じて、現状の把握と今後の発展に資する研究領域についての理解を深める。さらに、看護教育の実践に関する研究をする者にふさわしい態度と能力についての理解を深める。

学生はこれらの学習を通じて、自らが考えている解決したい現場の課題の関連分野ではどの研究がどのように行われ発展してきたのかや今後の展望について把握する。また、学習を通して看護教育の実践および看護教育に関する研究に必要な能力を修得する。

【キーワード】

看護職、看護基礎教育、現任教育、継続教育、看護実践と教育、理論と実践の往還

【授業の到達目標】

看護基礎教育、卒後の現任教育、継続教育に深い造詣を持ち、質の高い看護教育を実践できる能力とそれを支える知識基盤および研究能力の習得をめざす。

1. 看護教育の研究の動向を確認し、看護教育に必要な知識と理論に関する理解を深める。
2. 看護教育に関する研究の成果を活用し、看護基礎教育、卒後・現任教育、継続教育・キャリアアップ、看護職の教育者としての役割に関する現状の分析と自身の課題の位置づけを明確にすることができるようになる。
3. 看護教育に関する研究の方法論について理解を深め、自身の課題解決にふさわしい方法を選べるようになる。
4. 看護教育の実践者として、研究にも携わる者としての倫理的感受性を高める。
5. 上記 1~4 の学習を通して、現場の問題解決、情報発信に必要な素養を養い、自身の研究課題を明確にし、自身の研究を開始できる。

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション・本科目のねらい
2	看護に関する教育の定義と歴史、教育モデル
3	看護職の教育に関する研究の理念、研究モデル
4	看護職が看護および看護教育に関する研究を実施する上での配慮（倫理規範）
5	看護基礎教育に関する現状把握と課題
6	看護職の卒後教育・現任教育に関する現状把握と課題
7	看護職の継続教育・キャリア形成に関する現状把握と課題
8	看護教育を支える組織・仕組みに関する現状把握と課題
9	看護師の教育者としての役割、患者教育、健康教育に関する現状把握と課題
10	看護関連領域（医学やその他の専門職種）に関する教育の定義と歴史、教育モデル
11	看護関連領域（医学やその他の専門職種）の基礎教育に関する現状と課題
12	看護関連領域（医学やその他の専門職種）の現任教育に関する現状と課題
13	研究テーマに関する実践と先行研究の比較
14	研究テーマの明確化と研究の展望

15	全体のまとめ
試験	
<p>【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 指定したテキストを精読し、理解を深めておくこと。</p>	
<p>【スクーリングでの学修内容】 スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何をを目指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。</p> <p>学修初期のスクーリングに関しては、スクーリング前には自身の臨床・教育現場に関連した研究テーマの候補を準備し、テキストの精読および看護教育に関する基本文献の精読を通じて予習を行う。スクーリング後には、スクーリングでの学修成果をふまえて、自身の現場での課題とその解決につながるリサーチクエストの絞り込みにつなげる。</p> <p>学修中期のスクーリングでは文献検索を通して明らかになった看護および関連領域の教育に関する現状と課題についての発表と、相互検討を行う。</p> <p>学修終期のスクーリングでは、これまでの学修成果を通じて設定された課題について、自身の臨床・教育現場の知見と関連研究を組み合わせ、解決策を検討する。その上で、その結果をレポートにまとめ、学会等で報告し、あるいは実践現場に還元することを行っていく。</p> <p>スクーリングは上記の時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。</p>	
<p>【評価方法】 合否については、看護および関連領域の教育に関する現状と課題についての発表（25%）、レポート1本（25%）、科目修得試験（50%）で評価する。</p>	
<p>【テキスト】 舟島 なをみ 『看護教育学研究 発見・創造・証明の過程 第3版: 実践・教育の質向上を目指す研究の方法論』医学書院、2018年</p>	
<p>【参考図書】 グレッグ 美鈴、池西 悦子（編集）『看護教育学(改訂第2版): 看護を学ぶ自分と向き合う』南江堂、2009年</p>	
<p>【教員メッセージ】 本科目により教育、看護の実践家として自らの実践とその効果を科学的に説明できるようになること、自立した研究遂行ができるようになることを期待します。</p>	
<p>【備考】 特記事項なし</p>	